

2018 年度活動報告 CJP 授業：レギュラー 1

西村 由美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

初級レベルの学習者を対象とした、週3コマのクラスである。日常的な場面で簡単な会話ができること、自分の経験や身の回りの状況について簡単な言葉で説明できることを目標とした。主教材は『まるごと 初級1A2 かつどう』『まるごと 初級1A2 りかい』（以下『まるごと』）である。また、本教材に合わせて公開されている「MARUGOTO Plus」という学習サイトを、主に予習・復習用に活用することとし、教室ではできるだけ運用の練習や応用練習に時間が取れるようにした。授業では、聞く・話す活動を中心として、言語知識の整理と語彙の拡充を図りながら、自由度の高い応用練習を加えることによって、ある話題について伝えたいことを無理なく話せること、また場面に応じて、誘う・相談するなどの目的が達成できるようになることを目指した。

2. 授業内容

『まるごと』は、コミュニケーションの実践力をつけるための「かつどう」と、コミュニケーションのために必要な日本語のしくみについて学ぶための「りかい」の2冊に教科書がわかれている。授業は、1コマ目「かつどう」、2コマ目「りかい」の順で各回1課のペースで進めた。「かつどう」では、発話・聴解の練習活動、その課で取り上げる話題について自分の経験や感想を話す活動をし、「りかい」ではその話題について話すのに必要な言語知識の確認とそれを踏まえた発話練習、読解や発表、話し合いなどの応用練習を行った。各課が終わった次のコマでは、言語知識を確認するクイズを実施し、その場で自己採点した。また、自分について話せる内容を増やすために、2課に1回作文の宿題を課し、それをクラスで発表する機会を設けた。さらに、学生の話す意欲を高めること、使える言葉を駆使して会話を積極的に進める姿勢を育成することを意図して、秋学期からは日本語ボランティアを5回授業に取り入れた。

3. 成果と今後の課題

授業についていくのが大変だったという声があった一方で、レベルがもっと高い方がよかったという声もあった。日本語ボランティアと話す、日本人にインタビューするなど、各自の日本語力に応じて行える自由度の高い言語活動を取り入れ、好評ではあったが、学生のレベル差に対応するには十分ではなかったといえる。今後、教材の変更を含め、学生の個性・多様性に対応する授業運営を考えていく必要がある。